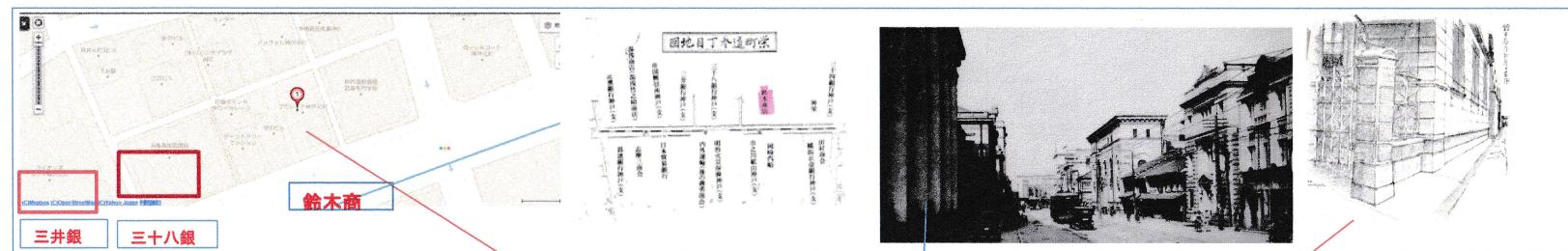


## ～栄町通散策ツアー・鈴木商店ゆかりの地を訪ねて①



### ＜栄町通3丁目の本店＞

神戸・栄町通4丁目に拠点を設けた鈴木商店は治35(1902)年、個人企業から合名会社に改組して「合名会社 鈴木商店」が誕生する。代表社員・鈴木よね、社員・金子直吉、柳田富士松の布陣で鈴木商店が始動する。合名会社を機に本社社屋を栄町通3丁目に移転した。元々は横浜正金銀行・神戸支店として建てられた建物（明治13(1880)年）で、レンガ造り2階建ての洋風建築。（「松方・金子物語」より）その後同建物は、三菱合資（銀行部）（明治30(1897)年4月）、鴻池銀行・神戸支店（明治33(1900)年12月）を経て、明治37(1904)年4月1日より鈴木商店の新社屋となった。現在、14Fマンション「プロシード神戸元町」が建っている辺り。（明治37(1918)年～大正5(1916)年）



### ＜栄町通4丁目の本店(個人商店時代)＞

神戸・弁天浜で創業した鈴木商店が業容の拡大に伴い、拠点を置いたのが栄町通で、4丁目は鈴木商店の個人商店時代のゆかりの地である。栄町通には、明治43(1910)年には市電が開通、銀行、証券会社、保険会社の洋風で重厚な建築が軒を連ね「東洋のウォール街」と呼ばれる程の繁栄を誇った。（？～明治37(1904)年）

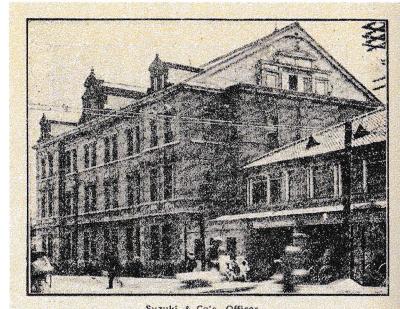
### ＜亀井堂総本店＞



開業当時の店舗



松井佐助(左)と鈴木岩治郎



Suzuki & Co's. Offices.



### ＜東川崎町の本店＞

神戸栄町通を拠点に業容が拡大した鈴木商店は大正5(1916)年、後藤回漕店・後藤勝造が東川崎町に増設したみかどホテル新館を買収し、新本社屋とした。（大正5年2月6日付移転広告 神戸又新日報）



みかどホテルは、建築家・河合浩蔵の設計によるコロニアアル風の豪華な木造3階建ての建物で、大正7(1918)年の米騒動による焼き打ち事件で焼失するまで、鈴木商店の本店として鈴木の飛躍の舞台となった。（大正5(1916)年～大正7(1918)年）



大正7(1918)年、東川崎町の本店を焼き打ちにより焼失した鈴木商店は、仮社屋の後、大正9(1920)年より海岸通に移転した。京町筋の神戸市立博物館（旧・神戸居留地24番館（旧横浜正金銀行神戸支店ビル））に隣接する旧居留地10番館である。現在のデビスピル（カーパークビル）の半分と隣接するポルシェセンターの部分に相当する。（大正9(1920)年～昭和2(1927)年）

## ～栄町通散策ツアー・鈴木商店ゆかりの地を訪ねて②～

### <神戸外国人居留地>

創業間もない鈴木商店は、栄町通に店を構え居留地のラスペ商会、オットライマース商会、シモン・エバース商会等の外国商館との取引が主体であった。

### シモン・エバース商会(旧・居留地No.101&102)

明治28(1895)年、台湾が日本領になり、台湾の樟腦に着目した金子直吉は樟腦のカラ売り（先物取引）で大失敗し、居留地商館との間でトラブルが発生。シモン・エバース商会とは“ハラカリ”騒動の末、円満解決に持ち込んだ。これを契機にオットー・ライマース商会始め全ての商館との間で問題が解決した。

### オットー・ライマース商会(旧・居留地No. 8)

### ヘリア商会(旧・居留地No.92&97)

### スミス・ペーカー商会(旧・居留地No.44&45, 3&4)

### ラスペ商会(旧・居留地No.91&77)

丁稚時代の金子直吉が外国商館の一つ、ラスペ商会に売り込みに行ったところ同商事が我が国の特産品の薄荷に強い関心を示したことからその需要を認識し、砂糖、樟腦とならんと薄荷事業を鈴木商店初期の主要品目に育て上げた。  
ドイツ系外国商館ラスペ商会出身のエミール・ポップとの合弁事業として明治42(1909)年、日本商業（後の日商、日商岩井を経て現・双日）が設立された。  
その後鈴木商店の全額出資となり、永井幸太郎（後の日商第二代社長）を専務に送り込んで事業展開を加速した。＊同商会出身者：岡本良太郎、井田亦吉、森衆郎

### ジャーディン・マセソン商会(旧・居留地No.107,108,58)

### イリス商会(元・クニフラー商会)(旧・居留地No.12)

イリス (C. Illies & Co.) は、ドイツ・ハンブルクに本社を置く、ドイツからの輸入機械を取り扱う専門商社。社歴は、安政5(1859)年7月に横浜と長崎（出島）で創業したクニフラー商会に遡る。

明治13年（1880年）5月同社共同経営者だったカール・イリスが  
＊同商会出身者：芳川荀之助、香川潔



### 神戸市立博物館(旧・居留地No.13)



神戸・旧居留地24番館に建つ神戸市立博物館は、旧市立南蛮美術館と市立考古館が統合されて昭和57(1982)年に開館した。建物は、昭和10(1935)年竣工の旧・横浜正金銀行神戸支店ビルを転用し、神戸の歴史と文化交流に関わる資料の展示を行っている。

当博物館には、鈴木商店ゆかりの品々が太陽鉱工を通じて寄託保管されている。有名な金子直吉の「天下三分の宣誓書」や日米船鉄交換契約を記念して駐日米国大使ローランド・モリスより贈られた「置時計」を始め金子直吉の愛用した手帳、電報記録簿等々が遺されている。

### バターフィールド＆スワイア商会(旧・居留地No.103)

明治20(1887)年頃、支店設置。

### ブラウン商会(旧・居留地No.26)

明治7,8(1874,5)年頃、ジャーディン・マセソン糖（中華火車糖局糖）を輸入したものを鈴木商店、藤田助七商店が引き取る。

### フィロンセー商会(旧・居留地No.118)

輸入し、鈴木商店、藤田商店の両辰巳屋が主に引き取る。

### 海岸通の鈴木商店本店(旧・居留地No.10)



大正7(1918)年、東川崎町の本店を焼き打ちにより焼失した鈴木商店は、仮社屋の後、大正9(1920)年より海岸通に移転した。

鈴木商店が移転したのは、旧居留地の海岸通と呼ばれる場所で、現在の京町筋の神戸市立博物館（旧・神戸居留地24番館（旧・横浜正金銀行神戸支店ビル））に隣接するカーパークビル(半分)隣接するポルシェセンターの区画部分（旧・居留地10番館）である。

居留地時代 ドイツ系のグッチョー商会～レンス商会